

特集2

在外研究レポート

教員に留学制度があるのをご存じの方は多いと思います。しかし、遠い外国で何をしているのかについては、あまり知られていないのではないのでしょうか。

留学先では最先端の研究に触れたり、現地の研究者達と交流をしたりする中で、多くの刺激を受けます。また、遠く離れた異国に行き、国内では得られない情報や意見に触れることで、国内のことや自らの研究を客観的に見つめるよい機会にもなっています。ある程度の英語が使えるとはいえ言語や文化の壁を感じることもあります。このように留学先では教員も挫折したり成長したりするので、す。そして、帰国後は、留学で学んだこと、研究したことを教育現場で活かすことが期待されています。

今回は、昨年度と今年度に留学した教員達に留学レポートを書いてもらいました。それでは、教員達の留学生生活を垣間

見てみましょう。

(編集担当：西村智)

留学先一覧

増永 俊一 教授	ノースカロライナ大学チャペルヒル校 2013年8月～2014年7月
市川 文彦 教授	EHESS (フランス共和国 国立社会科学高等研究院) 歴史研究センター 2014年4月～2015年3月
巖 廷美 准教授	ソウル大学 2013年10月～2014年3月
猪野 弘明 准教授	カリフォルニア大学サンディエゴ校 2012年9月～2014年8月
加藤 雅俊 准教授	カリフォルニア大学バークレー校 2012年4月～2014年3月
宮脇 幸治 准教授	オハイオ州立大学統計学部 2014年9月～2016年8月